

クウェート湾海洋環境浄化・保全モデル事業 — 安倍首相夫人が現地を訪問 —

背景

近年、アラビア湾奥に位置するクウェート(図1)では、クウェート湾での海水魚の斃死や赤潮の発生が顕在化して、大きな問題となっていました。このような中で、本事業は、平沼経済産業大臣(当時)とアハマド石油大臣代行(当時)との間で合意された「日本-クウェート環境・技術移転イニシアティブ」(2004)に基づき、「干潟による海水浄化事業」、「海水常時モニタリング事業」及び「両事業についての人材育成事業」を柱として計画されたものです。

本事業は、日本貿易振興機構(ジェトロ)が経済産業省の委託を受けて発注したもので、2004年の詳細設計調査に引き続き、2006年4月から2008年3月までの計画で、当社を幹事会社とする4社のプロジェクトチームが受託して実施しています。

すでに上記3事業とも目的に応じた進捗が得られ、現地でもその効果が認知される状況になっており、さらに2007年4月には、安倍首相の中東歴訪に同行された首相夫人が現地プロジェクトサイトを訪問され、当社職員がご案内する機会を得ました。



図1 クウェート周辺地図

事業の進捗状況

第1回セミナー開催

本事業をクウェート国内に広く紹介するために、2006年6月26日にクウェート市内のシェラトンホテルにおいて、第1回セミナーを開催しました(写真1)。

セミナーには、クウェート王室のシェイカ・アムサル女史と大木駐クウェート大使の臨席をいただき、関係機関からは

代表者としてビシャーラ環境庁長官、ジェトロ齊藤理事、当社の田畑会長も列席する中、環境庁職員をはじめ、多くの環境関連の実務者や研究者の参加を得ることができました。

セミナーでは終始、活発な質疑応答がなされ、翌日のクウェート各紙には、その内容が写真入りで大きく報道され、本事業を広く紹介する良い機会となりました。



写真1 第1回セミナーにおける展示内容の説明

実験干潟のジオラマ模型を前に、左よりビシャーラ環境庁長官、日・ク民間合同委員会アルサガル共同議長、当社光本、大木大使(左後ろにジェトロ齊藤理事)、当社田畑会長、シェイカ・アムサル女史、ジャパンデスク柳田首席代表

実験干潟の建設

干潟による海水浄化の実験を行うため、既存の干潟を乱さないように海岸沿いの埋立地を掘り込み、小規模な実験干潟を建設しました(写真2)。



写真2 建設された実験干潟

この場所は国有地ですが、シェイカ・アムサル女史が主宰する環境NGOが管理を行っており、周囲には豊かな干潟や生物相がみられます。人工的に建設した実験干潟には新たな生物の移入が始まっており、その浄化効果が期待されます。本事業では、その効果を定量的に示すため、生物や

水質・底質のモニタリングを実施していきます。自然の干潟に比べて観察しやすいように設計しており、環境教育の場としても利用される予定です。

モニタリングブイの設置

クウェート湾内の5地点にモニタリングブイを設置し(写真3)、水質センサーをブイの鉛直2～3層に配置することによって、海水の常時モニタリングを行っています。



写真3 モニタリングブイの設置

干潟ワークショップとOJTの実施

事業を今後とも継続的に進めていくための人材育成の一環として、干潟の果たしている役割についての認識を深めるため、現地踏査を含めたワークショップを開催しました。現地の写真などを見ながら、干潟の生物の果たす役割について活発なディスカッションが行われました。

なお、人材育成は、一方的な知識伝達のみではうまくいきません。日本側のプロジェクトチームは、クウェート環境庁の職員とともに作業し、実務を通じて技術移転を図るためのオン・ザ・ジョブトレーニング(OJT)を実施しています。

現在は、現地の干潟の泥及びそこに含まれる生物による浄化能力を測定するための実験を、共同で実施しているところです。

クウェート環境庁職員^{しょうへい}の日本招聘

クウェート環境庁の局長2名と実務者4名を日本に招聘し、日本での先行事例となる大規模な人工干潟や運用中の海水常時モニタリングシステムの視察及び日本側とのディスカッション等が行われました(写真4)。

これらを通じて、クウェートにおける本事業の成果が、事業終了後も持続的に活かされるようにしていくための研修を実施しました。



写真4 クウェート環境庁職員による
日本での人工干潟の視察

安倍首相夫人の実験干潟訪問

2007年4月30日には、安倍首相の中東歴訪に同行された首相夫人が実験干潟を訪問されました。シェイカ・アムサル女史を始めとするクウェートの環境関係者と、プロジェクトチームや現地日本人会が出迎え、当社の光本と三島が首相夫人に事業の説明を行いました(写真5)。



写真5 安倍首相夫人の実験干潟訪問

今後の展望

干潟事業では、実験干潟に出入りする海水や新たに移入する生物相などを通年でモニタリングし、浄化機能を定量的に確認していきます。モニタリング事業では、常時水質データを取得し、蓄積するようにしていきます。人材育成では、実験干潟やモニタリングブイシステムの維持管理の技術移転、及び本事業の成果を普及啓発していくための視覚に訴えるツールの作成を行います。

2年間の本事業を通じて、クウェートの将来の環境に寄与するために、まさしく「モデル事業」とすべく、今後も成果を積み重ねていきます。